

総合的病害虫管理（IPM）検討会

第2回野菜専門部会の議事概要

1. 日時 平成18年2月8日（水） 14:30～17:30

2. 場所 農林水産省特別第2会議室

3. 出席者

○野菜専門委員

大西 忠男（兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター 園芸部長）

河合 章（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 東北農業研究センター 野菜花き部長）

酒井 宏（群馬県農業局農政課 普及指導室 園芸技術グループ 副主幹）

白川 隆（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所 葉根菜研究部 病害研究室長）

豊嶋 悟郎（長野県野菜花き試験場 病害虫土壌肥料部 研究員）

○農林水産省

早川 泰弘 消費・安全局植物防疫課長

安藤 由紀子 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（防除班担当）

4. 配付資料

資料1-1 IPM実践指標モデル(キャベツ) (案)

資料1-2 IPM実践指標モデル(キャベツ)における化学農薬使用の考え方について (案)

資料2 IPM実践指標モデル(キャベツ)策定のスケジュール (案)

参考資料1 総合的病害虫管理（IPM）検討会野菜専門部会及び果樹専門部会開催要領

参考資料2 総合的病害虫管理（IPM）検討会第1回野菜専門部会及び果樹専門部会議事概要

参考資料3 総合的病害虫・雑草管理（IPM）実践指針

参考資料4 IPM実践指標モデル（水稻）

5. 議事概要

(1) IPM実践指標モデル(キャベツ)の策定について

議事の概要等は以下のとおり。

- 冒頭、キャベツのIPM実践指標モデル策定に当たっての化学農薬の使用についての考え方について検討した後、IPM実践指標モデル（キャベツ）案について

「病害虫の発生しにくい環境の整備」「防除要否及びタイミングの判断」「防除」に分けて検討を行った。

検討の結果、指標モデルは、栽培規模や栽培体系にかかわらず共通しているものを管理項目とし、共通していない部分を管理ポイントや注で補足することとなった。

キャベツの指標モデル作成については、以下の点について考慮することが確認された。

○病害虫の発生しにくい環境の整備

- ・ 反射資材はハウス育苗で利用するものであるから、防虫ネットと同様に「健全苗の育成」の管理ポイントとする。
- ・ 「健全苗の育成」について、無病地の選択は難しいので、「前年発生のなかったほ場を選択する。」とする。
- ・ 「定植」について、密植すると農薬が掛かりにくく、湿度が高くなり病気が発生しやすいので、「適切な栽植密度」を管理ポイントとする。
- ・ 生産現場では作付け時期をずらすことにより、病気を回避しているので、「作付け時期」について管理ポイントとして記載する。
- ・ 「夏期湛水作付け」は、実施可能な産地では重要な取組であることから管理項目とする。
- ・ 「ほ場衛生」について、生産現場では、トラクターに付着した土をほ場で落として外へは持ち出さないように指導している。

○防除要否及びタイミングの判断

- ・ 「発生予察情報の確認」について、農業者が何を行うかを記載する。また、交信攪乱剤が利用されている場合、フェロモントラップによる発生予察が不可能であることを注で補足する。
- ・ 「ほ場観察」について、「散布前に害虫発生地点に目印をし、散布後に効果の確認を行うこと。」及び「病害については、降雨が続いた後や台風通過後の早めの薬剤を注で補足する。
- ・ 農業者が自分で判断する尺度がないと取り組めないなので、病害虫、天敵の写真、防除の目安及び要防除水準等について、参考資料として添付する。

○防除

- ・ 「べたがけ資材の利用」については、夏場は気温が2, 3℃高く、湿度も高くなることについて注記が必要。
- ・ 「土着天敵の確認」は、生産者が確認してどうするかを記載する。

(2) 今後のスケジュール

今後の指標モデル作成の進め方について、モデル案を2月中にとりまとめ、第5回IPM検討会で報告することが確認された。